



イタチハギ



オオキンケイギク



ハルジオン

調べる
伝える
防ぐ
取り除く

在来植物を守るために

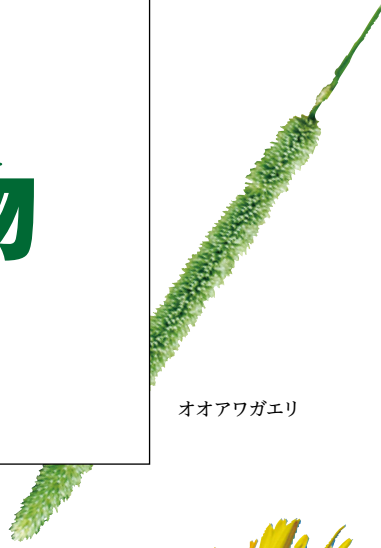
富士山の 外来植物

ハンドブック

ふじさんネットワーク



カモガヤ



オオアワガエリ



エゾノギシギシ



アレチウリ



セイヨウタンポポ

富士山で見られる在来植物

富士山で見られる日本の可憐な草花たち。
その居場所が外来植物によって脅かされつつあります。

富士山を愛する、みなさんへ

日本一高い富士山は、日本のシンボル。
世界遺産として注目されてからはますます多様な国から登山者が訪れ
ひと夏で約30万人前後の人々が世界中から集まります。
そういった登山者たちの目を時折和ませてくれる存在が
富士山に昔から自生している在来の植物です。
けっして派手ではありませんが、高山で美しい花を咲かす姿は愛らしく
また小さな生き物のすみかとなり、食べ物にもなります。

しかし、最近になって、その状況が少しずつ変わろうとしています。
多くの人が行き来する富士山五合目周辺や富士山スカイラインなどの道路沿いで
ここ数年は多くの外来植物が見つかっています。
それらの外来植物は生い茂る力が強いことから一旦定着してしまうと
富士山固有の植物や、在来植物のすみかを奪ってしまい
自然環境のバランスを崩してしまう恐れがあります。
外国の植物ばかりで覆われた富士山の風景を想像してみてください。
これは違う、いけないな、という気持ちになりませんか。

「これから100年後も、富士山在来の植物を残したい」
そう思ってもらえるように、このハンドブックを作りました。

このハンドブックでは富士山で見られる外来植物と
在来植物の見分け方を紹介しています。
このハンドブックと一緒に富士山を訪れ
あなたも富士山の生態系を守るサポーターの一員として
ぜひとも外来植物の存在に目を向けてみてください。

ふじさんネットワーク



【山蛭袋】
ヤマホタルブクロ

6~7月



【深山堇】
ミヤマスミレ

4~7月



【巴塩竈】
トモエシオガマ

8~9月



【富士藪】
フジアザミ

8~10月



【舞鶴草】
マイヅルソウ

5~6月



【富士蘆薈】
フジハタザオ

7~8月



【深山秋の麒麟草】
ミヤマアキノキリンソウ

8~9月



【豆桜】
マメザクラ

4~5月



【苔桃】
コケモモ

6~8月



【山芍薬】
ヤマシヤクヤク

4~6月



【岩爪草】
イワツメクサ

7~8月



【高嶺薔薇】
タカネバラ

6~7月

富士山への侵入を防ぎたい 要注意・外来植物ガイド

ここで紹介するのは、近年、富士山で見られるようになった外来植物です。これらは全国的に広がって問題になっており、外来生物法で緊急に対策が必要とされるなど、非常に繁殖力が強い植物です。外来植物は人間が持ち込んだものですが、その繁殖が広がることで、もともとそこに自生していた在来植物たちが姿を消し、在来植物と共生していた虫、鳥、動物たちも姿を消してしまうなど、生態系そのものが大きく変わってしまいます。人間が変えてしまった生態系を復元し、守っていくために、外来植物を見かけたら適切な方法で除去していきましょう。



1_葉の幅は1cm程度。両面にうっすら毛が生えている 2_葉は冬にロゼット状になる 3_花びらの色は黄橙色、花の中央部も同じ色をしている

オオキンケイギク

Coreopsis lanceolata
キク科 / 多年草

花はとても愛らしく、元々はその美しさから河川敷の緑化用のワイルドフラワーとして導入された。環境の悪い荒地でも育つことから重宝されたが、逆にそのキク科特有の繁殖力の強さと環境適応力から、またたく間に日本全土に広がった。茎は長く、一見するとそれほど強そうには見えないが、葉や根が強靱。このオオキンケイギクが生えている場所では、他の在来植物が育つことができない環境になっている。



見分け方の特徴

- ◎ 花びらの先が4〜5つに分かれる
- ◎ 葉は細長いスプーン状。冬はロゼット状になる
- ◎ 葉の周囲はなめらかやや肉厚で両面に粗い毛がある

原産	北アメリカ
背丈	30〜70cm
繁殖期	5〜7月
富士山侵入地点	富士一合目まで
侵略経路	1980年代に観賞用や河川敷の緑化などに用いられ、広がった
除去方法	開花初期の5月頃が狙い目。根から抜き取り、枯死させたのち、燃えるゴミで処分可。種子をつけた時期の除去は種子を広げてしまい逆効果になるため、避けること。

間違えやすい
在来植物

キバナコスモス

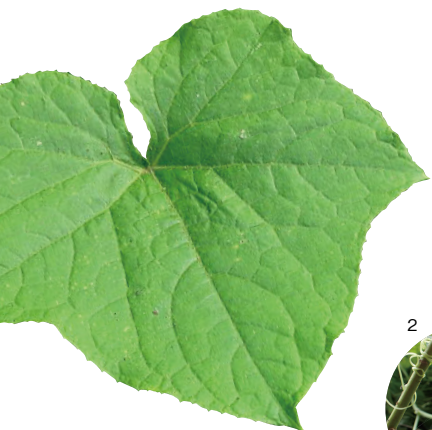


花は似ているが開花時期がこちらは秋で、葉に細かい羽状の切れこみがある。

アレチウリ

Sicyos angulatus
ウリ科 / 一年草

分岐したまきひげで近くにある物に絡みつき、長さ数mから時には10m以上に伸びて行く。ものすごい繁殖力で、種子は1株で木を覆い尽くし枯死させることも。地を這うように伸びて土壌が見えないほど埋め尽くし、他の植物の日当りを遮る。そのため、他の植物が生える隙がなくなってしまう。一年草で冬はすべて枯れるが、土壌に残された種子が翌年以降に発芽して成長する。土壌環境に対する適応性も高く、日本中くまなく分布している。



葉の直径は10~20cm。
3~7裂で表面はざらつく

原産	北アメリカ
背丈	ツル性で数m
繁殖期	8~10月
富士山侵入地点	富士山一合目まで
侵略経路	輸入大豆に種子が混入して持ち込まれたと推測される
除去方法	茎や葉に粗い毛があるため、除去の際には必ず手袋などをすること。1年草なので種をつける前ならば刈り取りも有効。春から秋まで芽吹きが続き、また根から再生するため同じ箇所を何度も刈り取るのが望ましい。

見分け方の特徴

- ◎ ツルを伸ばし、密集して生える
- ◎ 葉の端全体に小さな鋸状のギザギザがある
- ◎ 茎やツルには粗い毛、実にはびっしり細かい刺が生えている



1_雄花、雌花が別々にまとまって咲く。直径6mm程度 2_伸び縮みするまきひげを四方に伸ばして絡みつく 3_実にびっしり棘が生えていて、種子の発芽率も高い



間違えやすい在来植物 クズ



花は蝶形、葉は3つの小葉から成る多年草



1

1_花びら1つが1つの種になる。綿毛の先に種をくっつけて、遠くまで風に乗って飛んでいく 2_根は50~70cmになるものもあるほど長い



1つ1つの花びらに雌しべ雄しべがワンセットになっている

2



この部分が反っているのがセイヨウタンポポの印

セイヨウタンポポ

Taraxacum officinale
キク科 / 多年草

欧米では食用や薬草とされて広く活用されているタンポポ。持ち込まれたものが広まり、最近はタンポポといえば、在来種より、むしろこちらの方が多きほど。もともと北の方から分布してきたため、標高の高い山岳地でも生育可能な上に、交配せずに単為生殖で増えることができるのも強み。一見すると、ほとんど在来のもので変わりはなく、その違いは総苞外片が反り返っているところで見分けられる。

見分け方の特徴

- ◎ 在来のタンポポと異なり総苞外片が反り返っている
- ◎ 季節外れに咲くこともできる
- ◎ 1株だけで咲くこともできる

原産	北アメリカ
背丈	10~20cm
繁殖期	3~6月
富士山侵入地点	富士山五合目まで
侵略経路	食用や飼料として導入、1904年北海道で確認。
除去方法	春先の開花時期が除去しやすい。想像以上に根が長く、根が残ると再生するため、なるべく深くから引き抜くのがポイント。



間違えやすい 在来植物

在来のタンポポ



大きな違いは総苞外片が反っていないこと。花粉で受粉するため群生することが多い



1_花は多数の黒紫色の花が集まり、長さ6~20cm程度になる
2_果実は1cm程度。種子は熟しても裂けない 3_丸い小判型の葉が6~20枚の対になって並ぶ

オオアワガエリ

Phleum pratense

イネ科 / 多年草

別名チモシーと言えば、うさぎなどを飼っている人にはピンとくるかもしれない。北海道の牧場に牧草として導入されたことがきっかけで、現在では日本全土に広がっている。耐寒性があるため、高原や高地でよく見られ、在来植物と競合し、花粉症の原因の一つにもなっている。また種子が軽いことから風や雨、動物、人間などによって広まりやすく、多年草のため幾度も冬を越し、根茎によって陣地をじわじわ広げて行く。



花：
小穂が房型に並ぶ。長い茎をしなやかに風に揺らして花粉や種子を飛ばす

葉：
葉は15~60cm。線形でややざらつく

イタチハギ

(別名 クロバナエンジュ)

Amorpha fruticosa

マメ科 / 落葉低木

北アメリカ原産。耐暑性、耐乾性、耐水性、耐陰性があり、栄養分がない土壌でもよく育つため、日本各地の山岳や森など自然の中で野生化し、在来植物の生育を阻害している。一度定着すると他の植物が生えることができないほど繁り、長い年月、その場所を占領する。一株からは数百個から数万個の種子を生み出す。またイタチハギの種子から、同じ北アメリカの外来生物であるイタチハギマメゾウムシが見つかっている。



見分け方の特徴

- ◎ 羽状に6~20枚の対の葉がつく
- ◎ 4月~7月頃、枝の先に黒紫色の花の塊をつける

間違えやすい
在来植物

コマツナギ



葉は4~5枚対になって並ぶ。花は紅紫色の蝶形

原産	北アメリカ
背丈	1~5m
繁殖期	4~7月
富士山侵入地点	富士一合目まで
侵略経路	1912年以降、砂防、護岸、道路等の工事に伴う緑化に利用された
除去方法	4~7月の開花期後、種子をつける前に除去するのが効果的。大きく育ち根ごとの採取が難しい場合は、伐採でも効果がある。

見分け方の特徴

- ◎ 春から秋にかけて円柱形で長さ3~15cmほどの穂が直立する
- ◎ アワよりも房が細長く、細かい

間違えやすい
在来植物

カリヤスモドキ



富士山に多く自生するイネ科植物。穂は細長く、2~3本に分かれている



ハルジオン

Erigeron philadelphicus
キク科 / 多年草

一見すると可憐な愛らしさのある花だが、別名「貧乏草」。その立ち姿は直立不動で、他に何も生えないような荒れた土地に好んで生える。花も葉もいかにもキク科で、愛らしいが、かなり繁殖力が強く、日本全土に広がり、在来植物と競合して駆逐することもある。よくヒメジオンと間違われ、花の色で区別する人もいるが、実は関係なく、ピンクも白もそれぞれにある。花だけでは違いは分からず、一番の違いは茎と葉だ。



見分け方の特徴

- ◎ 茎が空洞
- ◎ つぼみは下向きにうなだれて付く



1

1_葉は両面ともに柔かい毛があり、茎を包むように生えている。茎は空洞 2_花の色はピンクや白などがあるが種類は同じ。真ん中は黄色



2

原産	北アメリカ
背丈	30~80cm
繁殖期	4~8月
富士山侵入地点	富士山三合目まで
侵略経路	観賞用として持ち込まれた
除去方法	種子をつける前に根ごと引き抜くのが効果的。踏みつけや刈り取りには耐性があり、除草剤にも耐性型がある。

間違えやすい外来植物 ヒメジオン



ハルジオンより草丈がやや高く、茎の内部に空洞がない

ヒメジオン

Erigeron annuus
キク科 / 一~二年草

花言葉は素朴で清楚。ハルジオンの方が有名だが、実はヒメジオンの方が先に日本に入ってきている。一見似ているが、遠目にも違いが分かる時がある。まずヒメジオンの花はスッキリして、背も高くスラッとして、茎や葉が細く張りがある。またハルジオンは白い毛が密集しているため、ヒメジオンの方が葉や茎の色も少し濃い印象だ。繁殖力が強く亜高山帯にも侵入しており短期間で大群落を形成することもある。

原産	北アメリカ
背丈	50~130cm
繁殖期	6~10月
富士山侵入地点	富士山二合目まで
侵略経路	観賞用として江戸時代に渡来し、明治初期に雑草化
除去方法	種子をつける前に根ごと引き抜くのが効果的。踏みつけや刈り取りには耐性があり、除草剤にも耐える場合がある。



1_ハルジオンよりも一回り小さい。色は白もピンクもある

1



葉は茎を包まず生えている。茎は中が詰まっている

見分け方の特徴

- ◎ 小さな菊のような花がたくさん咲く
- ◎ 茎が白い髓で満たされている
- ◎ つぼみが上を向いている

間違えやすい 外来植物 ハルジオン



違いの見分け方は茎が空洞で、葉が茎を包むようになっているのがハルジオン



カモガヤ

Dactylis glomerata
イネ科 / 多年草

かなり地味な見た目ながら、生態系被害防止外来種リストに掲載されている日本の侵略的外来種ワースト100の植物。耐寒性が非常に強く、葉は密集して生え、高さは40~150cmあるため、小さな在来植物に必要な日光を遮ってしまう。またイネ科アレルギーの原因の一つでもある。

原産 ヨーロッパ
背丈 40~150cm
繁殖期 7~8月
富士山侵入地点 富士山五合目まで
侵略経路 1860年代に牧草として輸入された種子が付く前の抜き取りや刈り取りが有効。葉が鋭いので、刈り取りには手袋などが必要。



1_穂と似たような小さな花を咲かせる。これが花粉症の原因 2_種子と根茎により繁殖する。



見分け方の特徴

- ◎ イネ科の鋭く細長い葉と丈夫な茎
- ◎ 葉鞘は背で二つ折りになり、やや扁平
- ◎ 茎の先の節々から枝を出し、小穂を多数つける

間違えやすい
在来植物

スズメノカタビラ



高さ10~25cm程度で低いが、同じイネ科の植物で、形状は似ている。



エゾノギシギシ

Rumex obtusifolius
タデ科 / 多年草

世界的に問題となっている雑草の一つ。生育が旺盛なため、在来植物の生育を妨げてしまうだけでなく、やっかいなのが近縁種と簡単に交雑してしまうことである。そのため、在来のものが絶滅する恐れもある。また交雑してしまうと除去の見分けが難しくなる。一株あたりの種子生産量は多い場合で数万個と繁殖力が強いのも特徴の一つ。刈り取っても苦みがあり家畜が好まないため厄介者として知られる。

原産	ヨーロッパ
背丈	60~130cm
繁殖期	6~9月
富士山侵入地点	富士山四合目まで
侵略経路	不明
除去方法	抜き取り、刈り取りが有効。



1_実を包む部分にスイバにはない針状の突起が見られる 2_葉は長さ30cmにもなり、緑が波立つ。葉脈が明瞭で、中央脈は紅色を帯びることも

見分け方の特徴

- ◎ 赤紫色の筋の入った波打つ丈夫な葉
- ◎ 茎は直立しており太い
- ◎ 花は淡い緑色で、階段状に輪生して穂を作り、後に穂全体が赤味を帯びる

間違えやすい
在来植物

スイバ



花は雄雌異株で、実を包む部分に針状の突起がない。



あなたの足裏にくっついてきているかも？

外来植物の繁殖を食い止めるためには、「調べる」「伝える」「防ぐ」「取り除く」というサイクルを形成し、戦略的に対策を続けることが大切です。サイクルをきちんと回していくためには、行政や専門家だけでなく、自然保護団体や地域の住民のみさんの取り組みが必要です。

【富士山へ登る方へのお願い】

ここで紹介して来た「外来植物」は、国内ほぼすべての地域と場所に定着してしまった繁殖力の強い植物です。都会の街中でも、公園でも、線路沿いでも、見かけるようなものばかりです。その種子は虫や鳥、風によっても運ばれますが、人間の靴の裏や衣服にくっついて運ばれることも多いのです。こうした種子を取り除くように、みんなで気をつけましょう。



外来植物の種子を登山者の靴から取り除く防除マット（須走口）

外来植物除去活動にご協力をお願いします

ふじさんネットワークをはじめとする、富士山周辺の団体や行政機関では、除去活動を推進しています。除去イベントへの参加や、自主的な除去活動の開催に、ご協力をお願いします。広く分布してしまった植物を除去するにはみなさんの力が必要です。見つけたその場で除去をお願いします。

【除去活動のポイント】

その1 見分ける

まず、すべては「在来植物」か「除去すべき外来植物か」を正確に見分ける力を持つことから始まります。このガイドブックや専門書を持ち歩いて、見比べてみてください。またルーペやカメラなどを持参すると、細部まで見比べることができます。在来植物を楽しむ際にも便利です。

その2 道具の活用

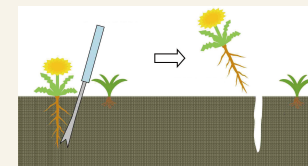
外来植物を根から抜き取るためには、園芸用の道具や手袋などが必要です。



- 根掘り**
深い根や固い土を掘るのに使用します。
- 根起こし**
刃を株の下に差し込み、根を引き起こして抜き取ります。
- 根切り**
根起こしでは取りにくい、長く深く深い根に使用します。

ふじさんネットワークでは、これらを無料で貸し出しています。貸し出しについてのお問い合わせはこちらまで

ふじさんネットワーク事務局 TEL 054-221-2963



その3 除去後の処分

種子を落とさないよう取り扱いに注意してください。植物は一見枯れていても根の断片から再度芽を出したり、種子は数年間眠ったまま生きています。除去が拡散の原因にならないよう、外来植物を除去した場合は、ビニール袋を2重にするなど破れにくい袋に入れて密封しましょう。その後、各市町の決まりを守ってごみに出してください。

調べる、伝える、防ぐ、取り除く

在来植物を守るために

富士山の外来植物 ハンドブック

平成30年1月発行

参考文献

「外来生物事典」東京書籍

「フルカラー特選ガイド④ 富士山とその周辺を歩く」山と溪谷社

「富士山自然大図鑑」静岡新聞社

「山溪カラー名鑑 日本の樹木〔特装版〕」山と溪谷社

「子どもと一緒に覚えたい 道草の名前」マイルスタッフ

「特定外来生物の見分け方（同定マニュアル）植物」環境省

「河川における外来植物対策の手引き」国土交通省河川環境課

「平成26年度富士山麓外来植物等調査業務委託報告書」静岡県自然保護課

「侵入生物データベース」国立環境研究所

監修 ふじさんネットワーク会長
増澤武弘（静岡大学客員教授）

作成 ふじさんネットワーク事務局
〒420-0801 静岡市葵区追手町9番6号

静岡県・くらし・環境部 環境局
自然保護課 富士山保全班内

TEL：054-221-2963 FAX：054-221-3278

<http://www.fujisan-net.jp>



本書の作成には、マックスバリュ東海株式会社、及びハーゲン
ダッツジャパン株式会社からの寄附金が使われています。